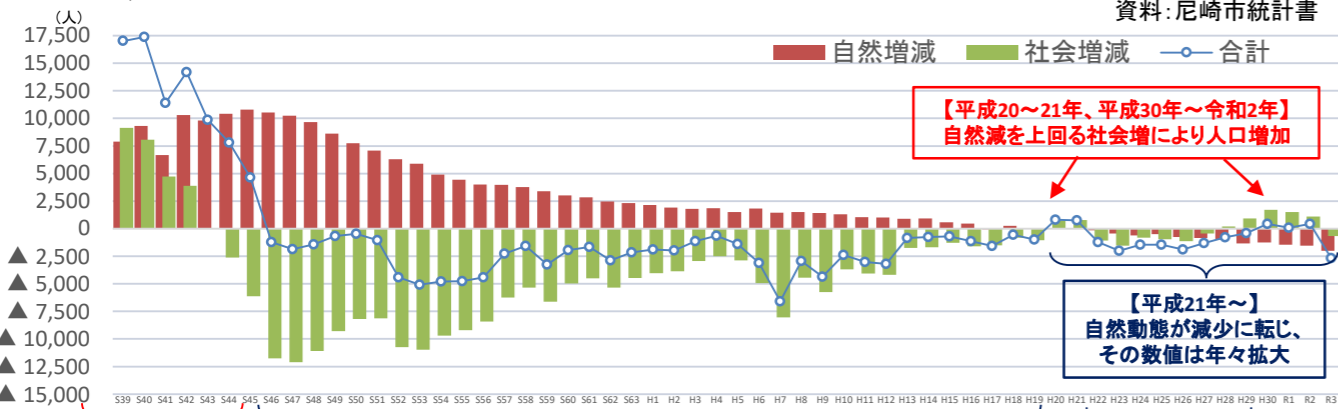


【概要版】人口動態等に関する報告書（令和3年度版）

○ 尼崎市の人口動態

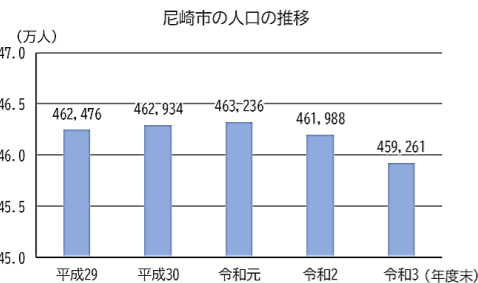


○ 地区別人口の状況

1 人口

市全体でみると、令和2年度、令和3年度は減少し、平成30年度、令和元年度は増加している。平成29年度から令和3年度の期間を通じては、0.7%減少（▲3,215人）している。

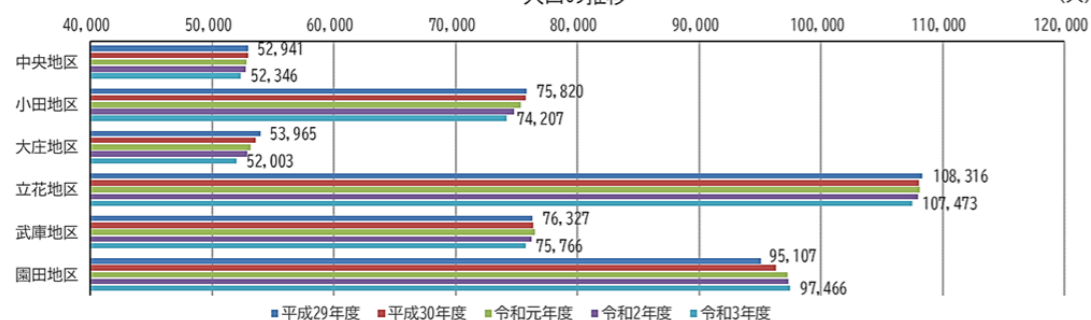
地区別にみると、平成29年度から令和3年度にかけて、園田地区を除き人口が減少傾向にある。この期間で最も減少率が高いのは、大庄地区であり、3.6%減少（▲1,962人）している。一方、期間中毎年、人口が増加傾向にあるのは園田地区のみであり、2.5%増加（2,359人）している。



単位(人)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	変化(H29-R3年度)	
						実数	増加率
全市	462,476	462,934	463,236	461,988	459,261	▲3,215	▲0.7%
中央地区	52,941	52,941	52,847	52,752	52,346	▲595	▲1.1%
小田地区	75,820	75,767	75,378	74,787	74,207	▲1,613	▲2.1%
大庄地区	53,965	53,561	53,147	52,891	52,003	▲1,962	▲3.6%
立花地区	108,316	108,007	108,129	107,996	107,473	▲843	▲0.8%
武庫地区	76,327	76,360	76,501	76,218	75,766	▲561	▲0.7%
園田地区	95,107	96,298	97,234	97,344	97,466	2,359	2.5%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

人口の推移



2 65歳以上の人口

市全体でみると、65歳以上の人口は、平成29年度から令和3年度にかけて0.1%増加（98人）している。地区別にみると、平成29年度から令和3年度にかけて、北部3地区での増加が目立つ。

65歳以上人口 (各年度未現在)

単位(人)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	変化(H29-R3年度)	
						実数	増加率
全市	126,789	127,410	127,749	127,585	126,887	98	0.1%
中央地区	15,979	15,993	16,045	16,030	15,927	▲52	▲0.3%
小田地区	21,804	21,785	21,784	21,637	21,432	▲372	▲1.7%
大庄地区	17,219	17,207	17,072	16,914	16,708	▲511	▲3.0%
立花地区	29,145	29,385	29,514	29,549	29,461	316	1.1%
武庫地区	19,482	19,708	19,838	19,852	19,842	360	1.8%
園田地区	23,160	23,332	23,496	23,603	23,517	357	1.5%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

○ 人口動態の状況

1 地区別単身・二人世帯における社会動態

(1) 単身世帯の傾向

市全体でみると、平成29年以降は転入超過となっていたが、令和3年は転入超過数が大幅に減少した。

地区別にみると、平成29年以降は、中央地区、小田地区、立花地区、園田地区で転入超過の傾向が続いている。武庫地区は転出超過が続いていたが、平成30年に転入超過に転じている。また、大庄地区は、令和元年に転入超過に転じたものの転出超過の傾向が続いている。

(2) 二人世帯の傾向

市全体でみると、平成29年から令和2年にかけて転入超過の傾向が続いているものの、令和3年は超過数が減少した。

地区別にみると、中央地区で平成29年に、大庄地区で令和元年と令和3年に転出超過が見られるほかは、すべての地区で転入超過となっている。

●単身世帯の社会動態

単位(世帯)	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全市	809	1,389	2,100	1,736	771
中央地区	183	302	331	425	369
小田地区	189	246	240	105	25
大庄地区	▲18	▲8	65	▲14	▲93
立花地区	181	316	634	552	267
武庫地区	▲62	85	54	129	63
園田地区	336	448	776	539	140

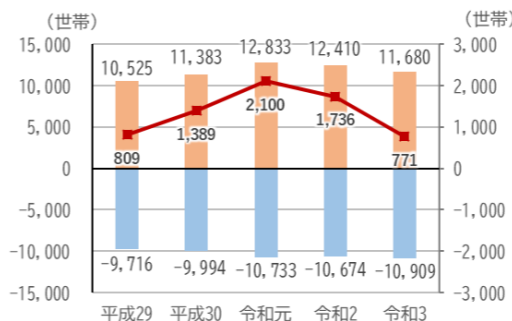
資料：尼崎市都市政策課

●二人世帯の社会動態

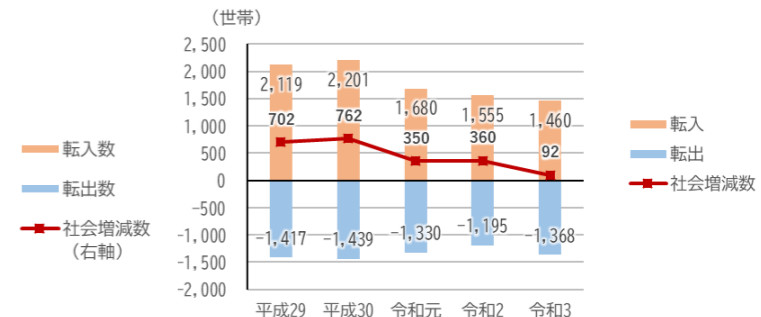
単位(世帯)	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
全市	702	762	350	360	92
中央地区	▲21	26	26	54	15
小田地区	144	120	66	27	8
大庄地区	48	62	▲17	71	▲7
立花地区	11	92	86	77	20
武庫地区	117	161	89	80	14
園田地区	403	301	100	51	42

資料：尼崎市都市政策課

尼崎市の単身世帯の社会増減数



尼崎市の二人世帯の社会増減



2 10歳階級別、転入元・転出先別 社会動態

平成29年から令和3年にかけての社会動態を10歳階級別にみると、特に20代で大幅な転入超過の傾向が続いている。一方、10歳未満は、大幅な転出超過が続いている。また、30代の転出超過は平成30年以降改善が見られたものの、令和3年は大幅な転出超過となっている。

また、自治体別の本市への移動状況をみると、神戸市及び西宮市で毎年転入超過となっている。一方、伊丹市及び宝塚市においては、本市から転出超過が続いていたが、令和3年に宝塚市が転入超過となった。

10歳階級別社会動態(転入-転出)

単位(人)	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
総数	610	1,687	1,223	928	▲456
0～9歳	▲576	▲471	▲595	▲569	▲613
10～19歳	155	167	213	171	50
20～29歳	1,093	1,645	1,803	1,309	1,016
30～39歳	▲189	93	▲90	▲151	▲434
40～49歳	▲14	83	▲69	102	▲222
50～59歳	140	111	43	100	▲16
60歳以上	1	59	▲82	▲34	▲236

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注1)平成30年以降の数値には外国人の移動を含む。

(注2)「総数」は転出先・転入元・年齢不詳等を含み年齢別の合計と合わないことがある。

転入元・転出先別社会動態(転入-転出)

単位(人)	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
総数	610	1,687	1,223	928	▲456
神戸市	407	500	513	422	250
明石市	13	49	▲20	▲37	47
西宮市	187	342	87	146	20
伊丹市	▲59	▲226	▲40	▲124	▲290
宝塚市	▲86	▲10	▲96	▲41	27
大阪市	137	201	5	▲13	▲123
豊中市	9	13	20	▲47	▲59
東京圏	▲628	▲584	▲762	▲421	▲484
その他	630	1,402	1,516	1,043	158

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注1)平成30年以降の数値には外国人の移動を含む。

(注2)「総数」は転出先・転入元・年齢不詳等を含み地域別の合計と合わないことがある。

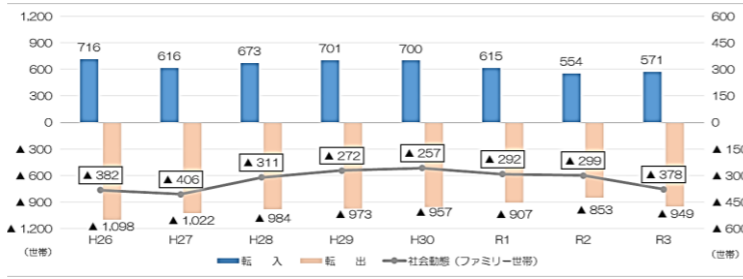
○ ファミリー世帯（5歳未満の子どもがいる世帯）の状況

1 転入元・転出先別 社会動態

ファミリー世帯については、平成29年から令和3年にかけて、下表に記載しているほぼ全ての自治体で本市からの転出超過となっている。特に、伊丹市及び宝塚市へは毎年ファミリー世帯の転出超過が続いている。

一方、大阪市からは毎年転入超過の状態にあり、その超過数は40世帯前後で推移している。

単位（世帯）	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	変化（H29-R3）
合計	▲272	▲257	▲292	▲299	▲378	▲106
神戸市	▲16	▲23	▲18	▲41	▲34	▲18
明石市	▲8	▲9	▲13	▲19	▲15	▲7
西宮市	▲1	6	▲39	▲45	▲30	▲29
伊丹市	▲60	▲76	▲62	▲71	▲78	▲18
宝塚市	▲48	▲34	▲45	▲43	▲26	22
大阪市	53	43	38	36	43	▲10
豊中市	▲2	5	▲8	▲9	▲11	9
東京圏	▲40	▲40	▲36	0	▲9	31
その他	▲150	▲129	▲109	▲107	▲218	▲68



2 町丁目別 社会動態

平成29年から令和3年にかけて転入超過が目立つ町丁目は、園田地区において、平成29年から平成30年の「上坂部1丁目」、平成29年の「下坂部3丁目」、令和2年の「東塚口町1丁目」である。

一方、同期間に転出超過が目立つ町丁目は特にないが、広い範囲で転出超過が生じている状況である。

町丁目別 ファミリー世帯の転入超過数（上位5位、単位：世帯）

地区	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
中央地区	西難波町1丁目 7 北大物町 6	北竹谷町1丁目 16 東難波町4丁目 13 南城内 8 西難波町3丁目 5	東難波町4丁目 14 西難波町3丁目 6 北竹谷町1丁目 5	西大物町 16 東難波町4丁目 5	北大物町 7
小田地区	下坂部3丁目 47 善法寺町 8 高田町 7 常光寺2丁目 5	下坂部3丁目 25 久々知西町1丁目 11 杭瀬北新町3丁目 11 善法寺町 8 久々知2丁目 6	杭瀬北新町3丁目 10 長洲中通3丁目 9 久々知西町1丁目 6 杭瀬南新町4丁目 5 長洲中通2丁目 5	長洲中通3丁目 8 常光寺1丁目 7 杭瀬寺島1丁目 6 長洲東通1丁目 6 杭瀬北新町3丁目 5	長洲中通2丁目 6 神崎町 5
大庄地区	琴浦町 7 大庄西町4丁目 6	崇徳院3丁目 6 元浜町3丁目 5		蓮川町 6 大庄西町4丁目 6 稲葉元町3丁目 5 大庄北5丁目 5	大庄西町4丁目 21 大庄北1丁目 6 菜切山町 5
立花地区	富松町3丁目 16 富松町4丁目 8 三反田町3丁目 7	富松町1丁目 37 水堂町2丁目 9 南塚口町7丁目 5 富松町4丁目 5 塚口本町5丁目 5	富松町3丁目 6 上ノ島町2丁目 6 三反田町2丁目 5 富松町4丁目 7 三反田町1丁目 6	富松町4丁目 10 富松町2丁目 9 水堂町2丁目 8 塚口町4丁目 7 三反田町2丁目 6	尾浜町2丁目 10 栗山町2丁目 10 富松町4丁目 8 上ノ島町2丁目 7 南塚口町8丁目 5
武庫地区	武庫之荘5丁目 13 西昆陽2丁目 9 武庫の里1丁目 8 武庫元町1丁目 7 南武庫之荘9丁目 7 南武庫之荘9丁目 7	武庫之荘6丁目 11 武庫之荘7丁目 10 武庫元町1丁目 10 南武庫之荘9丁目 6 武庫の里1丁目 5	武庫町1丁目 15 武庫之荘7丁目 12 武庫の里2丁目 7 武庫之荘6丁目 8 武庫豊町3丁目 7 武庫の里1丁目 5	武庫之荘西2丁目 9 西昆陽2丁目 11 武庫の里2丁目 7 武庫之荘6丁目 8 武庫豊町3丁目 5 武庫の里2丁目 5	西昆陽2丁目 11 武庫之荘本町2丁目 10 武庫之荘6丁目 8 武庫之荘8丁目 8 武庫の里2丁目 8
園田地区	上坂部1丁目 196 東園田町8丁目 9 御園2丁目 8 食満6丁目 5	上坂部1丁目 102 南塚口町4丁目 17 瓦宮2丁目 9 東園田町8丁目 8 瓦宮1丁目 6 食満7丁目 5	南塚口町6丁目 22 瓦宮2丁目 6 小中島2丁目 5 田能5丁目 5 食満7丁目 5	東塚口町1丁目 48 若玉寺2丁目 8 東園田町3丁目 6 南塚口町6丁目 6 戸内町2丁目 5	南塚口町6丁目 28 若玉寺3丁目 24 田能1丁目 16 食満7丁目 7

資料：尼崎市都市政策課
（注1）市内転居による地区間移動を含む
（注2）4世帯以下の町丁目は、上位5位内でも省略

町丁目別 ファミリー世帯の転出超過数（上位5位、単位：世帯）

地区	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
中央地区	東難波町5丁目 12 西難波町1丁目 8	東難波町5丁目 9 西難波町1丁目 8		東難波町3丁目 9 昭和通2丁目 6 神田北通4丁目 5 大物町2丁目 5	東難波町5丁目 10
小田地区	潮江1丁目 14 潮江5丁目 11 長洲本通1丁目 11 額田町 10 次屋1丁目 7	潮江5丁目 18 額田町 17 潮江1丁目 13 次屋1丁目 10 潮江2丁目 6 浜2丁目 6 浜3丁目 6	浜2丁目 7 今福1丁目 7 西川2丁目 7 神崎町 7 今福1丁目 6 常光寺3丁目 6 金楽寺町2丁目 6	潮江5丁目 15 額田町 9 西川2丁目 11 神崎町 7 額田町 6 善法寺町 6 長洲東通3丁目 6	潮江1丁目 16 西川2丁目 11 潮江3丁目 7 額田町 6 善法寺町 6
大庄地区	大庄川田町 7 崇徳院2丁目 6 元浜町3丁目 6 大庄西町1丁目 6	大庄中通1丁目 5 道意町6丁目 5 大庄西町3丁目 5 大庄西町1丁目 5	稲葉元町1丁目 7 崇徳院2丁目 5 大庄西町1丁目 5 大庄西町1丁目 5	大庄川田町 6 大庄中通1丁目 6 大庄西町1丁目 6 浜田町3丁目 5	大庄川田町 6
立花地区	塚口町1丁目 18 南武庫之荘2丁目 16 塚口町4丁目 15 上ノ島町3丁目 13 立花町1丁目 12	南武庫之荘2丁目 20 南武庫之荘3丁目 15 武庫之荘東2丁目 15 立花町2丁目 11 塚口町6丁目 10 上ノ島町1丁目 10	南武庫之荘2丁目 23 上ノ島町3丁目 15 塚口町1丁目 14 南武庫之荘2丁目 9 三反田町2丁目 11 南武庫之荘2丁目 10	南武庫之荘3丁目 22 塚口町1丁目 14 武庫之荘東2丁目 13 南武庫之荘3丁目 13 三反田町2丁目 11 南武庫之荘2丁目 10 南武庫之荘東2丁目 10	塚口本町1丁目 18 七松町2丁目 13 南武庫之荘3丁目 13 南武庫之荘2丁目 10 武庫之荘東2丁目 10
武庫地区	南武庫之荘7丁目 14 武庫之荘西2丁目 12 常松1丁目 11 南武庫之荘5丁目 11 南武庫之荘10丁目 10	武庫之荘2丁目 13 武庫之荘1丁目 12 南武庫之荘5丁目 14 南武庫之荘7丁目 13 武庫元町1丁目 10 南武庫之荘7丁目 10 常吉2丁目 10	南武庫之荘4丁目 16 南武庫之荘1丁目 17 南武庫之荘4丁目 13 武庫之荘東1丁目 11 南武庫之荘8丁目 12 南武庫之荘5丁目 8 南武庫之荘7丁目 10	南武庫之荘7丁目 20 武庫之荘1丁目 17 南武庫之荘4丁目 13 武庫之荘1丁目 10 南武庫之荘5丁目 8 南武庫之荘7丁目 10	武庫之荘2丁目 11 武庫町2丁目 11 武庫之荘1丁目 10 南武庫之荘5丁目 10 南武庫之荘7丁目 10
園田地区	南塚口町3丁目 21 南塚口町5丁目 16 東園田町1丁目 15 東園田町5丁目 11 東園田町6丁目 10	東園田町5丁目 15 南塚口町3丁目 15 猪名寺1丁目 11 南塚口町5丁目 11 猪名寺1丁目 10 東園田町4丁目 10	南塚口町2丁目 17 猪名寺1丁目 11 南塚口町3丁目 14 小中島3丁目 11 南塚口町5丁目 9 南塚口町5丁目 9 南塚口町5丁目 11	東園田町5丁目 14 南塚口町3丁目 14 南塚口町3丁目 16 上坂部2丁目 16 南塚口町5丁目 12 東園田町5丁目 11	南清水 18 南塚口町3丁目 16 南塚口町3丁目 16 上坂部2丁目 16 南塚口町5丁目 12 東園田町5丁目 11

資料：尼崎市都市政策課
（注1）市内転居による地区間移動を含む
（注2）4世帯以下の町丁目は、上位5位内でも省略

○ 在留外国人人口の状況

1 在留外国人人口

市全体でみると、在留外国人人口は、平成29年度から令和3年度にかけて、4.4%増加（493人）している。

地区別にみると、武庫地区を除く5地区において増加しており、平成29年度と令和3年度との比較では、園田地区での増加率が最も高く、12.3%増加（223人）しており、続いて中央地区の9.2%増加（162人）、大庄地区の4.4%増加（81人）の順となっている。一方、武庫地区では5.4%減少（▲103人）している。

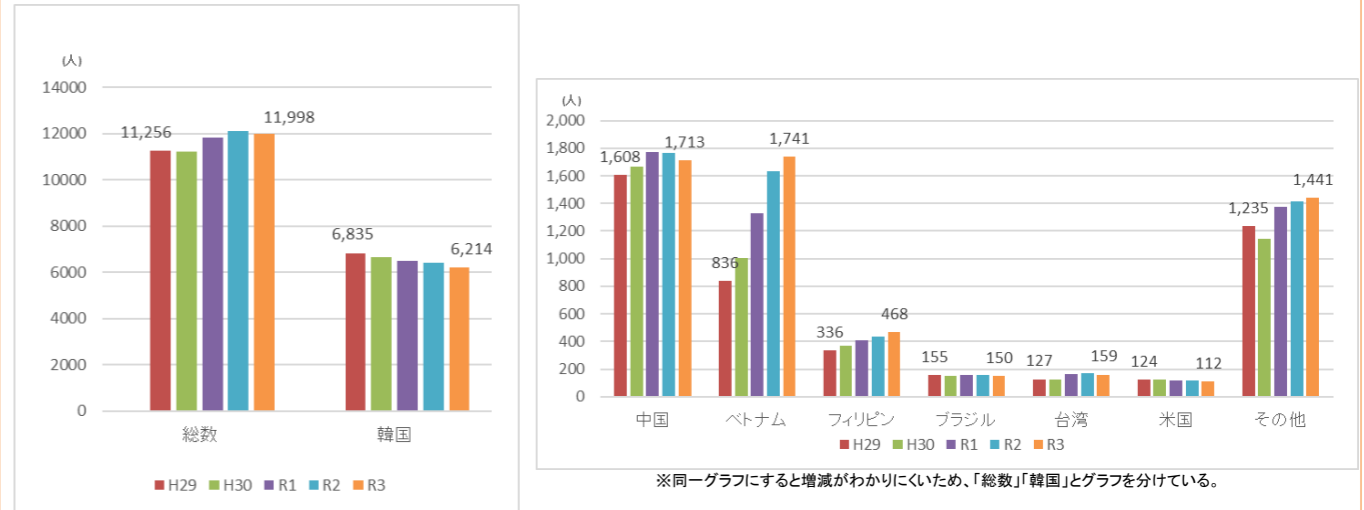
単位（人）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	変化（H29-R3年度）	
						実数	増加率
全市	11,108	11,468	11,962	11,986	11,601	493	4.4%
中央地区	1,759	1,866	1,918	1,992	1,921	162	9.2%
小田地区	1,555	1,605	1,665	1,682	1,602	47	3.0%
大庄地区	1,827	1,895	1,979	2,016	1,908	81	4.4%
立花地区	2,245	2,263	2,378	2,375	2,328	83	3.7%
武庫地区	1,914	1,905	1,928	1,846	1,811	▲103	▲5.4%
園田地区	1,808	1,934	2,094	2,075	2,031	223	12.3%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

2 国籍別在留外国人人口

単位（人）	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	台湾	米国	その他
H29	11,256	1,608	6,835	836	336	155	127	124	1,235
H30	11,233	1,669	6,649	1,002	372	148	126	125	1,142
R1	11,839	1,772	6,513	1,330	411	155	165	116	1,377
R2	12,095	1,763	6,398	1,635	438	156	170	118	1,417
R3	11,998	1,713	6,214	1,741	468	150	159	112	1,441
差引き(H29-R3)	742	105	▲621	905	132	▲5	32	▲12	206

資料：出入国在留管理庁「在留外国人統計」 各年6月末



※同一グラフにすると増減がわかりにくいいため、「総数」と韓国」とグラフを分けている。

